

平成 27 年度第 4 回湖南省総合計画審議会

議事要約

日 時	: 平成 27 年 7 月 30 日 (木) 午後 2 時～ 4 時
場 所	: 東庁舎 3 階 大会議室
出席者	: 委員 18 名
欠席者	: 7 名

1. 開会 (事務局)

第 4 回湖南省総合計画審議会を開会する。
委員自己紹介 (省略)
事務局自己紹介 (省略)
過半数以上である 18 名の出席を得ており、成立。

2. 会長あいさつ (要旨)

皆様、暑い中集まっていたいただき、ありがとうございます。

総合計画は昨年度から審議を始めており、アンケート調査、若者ワークショップを実施している。これまでの総合計画と異なり、人口減少という条件下での策定となる。どのようなまちづくりを進めれば、市民の安寧が得られるのか、それぞれの立場でご意見をいただきたい。よろしく願います。

3. 審議

1) 第 2 次湖南省総合計画基本構想 (案) について

(事務局より資料説明) (省略)

意見交換

●会長

基本構想と 3 つの物語について事務局から説明があった。何か、意見、質問はないか。

●委員

人口減少を止める方策として転入者の増加についてはどこの市町でも取り組み、他都市からの転入は難しいが、方向としては間違っていないと考える。

資料 2 の 40 頁の 2 行目の「2040 年」は「2060 年」の誤りではないか。

「3 つの物語」で第 1 話に「無人トラックやロボット」、第 3 話に「無人タクシー」で「無人」とあると、地域に人がいなくなるようなイメージがするが、どうか。

●事務局

転入の方向性については、全国で人の取り合いになるという認識はある。湖南省らしい施策を取り組んでいきたい。

「2060年」については、訂正する。

「無人」については、わかもん委員会で出てきたキーワードである。人がいないというイメージではなく機械的な表現になるように、言い回しを考えたい。

●会長

現在、湖南省は社会減になっているが社会増にするということで、どこの市町もがんばって取り組むことになる。他所以上に湖南省ががんばると人が増えていくことになる。画期的な提案がないと、人口を増やすことは難しい。

計画に具体性を持たせるためには、今の社会減はどういう社会減はなのか詳しく分析した上で、どういう手当が湖南省に必要か考える。例えば、どの年齢層が出て、どの年齢層が入ってくるのか分析すれば、湖南省に引き付けやすい年齢層、ターゲットが見えてくる。

人口1億人を維持するために、出生率をあげるには、どういう取り組みが必要か考えと、1つは、若い女性、出産する人がたくさん必要である。また、安心して子どもが産める、育てやすい環境が必要である。湖南省でどのように出生率をあげていくのか、後の施策で述べることになる。

●委員

会長の意見で社会状況が上げ潮から引き潮になっていることは理解できる。基本構想は、それに対してどのような目標を設定するか明確にして、具体的な方策を今後10年間で取り組むことという認識でよいか。

人口減少に耐え得る制度や条例は必要になると思うが、設計のもとになるのが基本構想であるということよいか。

基本構想について理解できない人がいる場合はどう考えているのか。

●事務局

社会の情勢を踏まえて、基本構想では、人口減少社会にあって第5章の3つの重点プロジェクトを進めていきたい。

基本計画では具体的な話になってくる。重点プロジェクトに関わる部分は第7章になる。次回の会議で第7章について審議していただく。議会で承認されれば、その方向に向かって条例や制度等を設計することになる。

冊子を印刷する予定である。難しい言葉にはわかりやすく解説を入れ、市民にわかってもらえるようにしていきたい。冊子以外にもホームページにも掲載し、誰もが見るができるようにする。

●委員

現在の子どもたちが、自立して就職して税金を納めることができる人材に成長するのか不安である。きちんと働き続けることができるように、手当が必要と考えている。

●会長

とても重要で、計画に反映してほしい。

●委員

防災マップを全世帯に配布したが、何人が見たのか。市民に地域についてどれだけ関心をもってもらうかが大切である。大学で大阪や京都にでた若者が就職もそちらでしてしまい、地域におもしろみがないと考えて帰ってこない。まちを活性化しないといけないと呼びかけても、皆さんまちづくりに関心がない。これからの課題は、我々のまちは自分たちで作っていく、まちづくりは市民自身の問題だと考えてもらえるようにすることである。

●会長

非常に重要な論点であると思う。個人的な意見だが、日本は行政がやりすぎていて、市民は行政任せになっている。何でも行政がやる時代は終わっているが、多くの市民が気づいていない。市民にまちづくりの活動に参加してもらえない。行政はここまでできるが、ここからは市民がやらないと行政のやったことも効果がでないことを説明する。市民と行政の関係を変えていかないといけない。人口減少社会は、行政も市民も考え方を転換しないと、変化についていけない。

行政ができること市民ができることをつながないと、市が良くなっていかないと計画の全面にうたわないといけない。総合計画で市民と行政の新しい関係性を表すことが大切である。

●委員

市の職員が自治会に入らないと聞いた。休日に地域活動があっても市民はボランティアだが、職員は有償だと聞いたが、市民と同じ土俵に立ってほしい。

昔と違って市の職員が外から来ている人が多く、地域のことがわからなくなっているらしい。若い職員は湖南省市に住んで、結婚・子育て・仕事をして、湖南省市の中で得たことを仕事に生かしてはどうか。本当に思い切ったことが必要ではないか。

●会長

自治体の職員になることは、若い世代にとっては良い就職口で競争率が高く、成績優秀でないと試験に合格できない。昔は地元の人が職員になるケースが多かった。

恐らく、これからは財政等を勘案すると、市の職員数は減ってくる。今まで行政が担ってきたことが、まちづくり協議会や自治会、市民がボランティアで担うことが増えてくる。日本も明治に市や町を作った時、地元の人がお金や能力を出し合って学校を作ったりした歴史がある。市民が責任を持つという姿勢が必要である。

●委員

近畿の「住みよさランキング」で、草津市が1位でトップ10に滋賀県の都市がいくつか入っている。湖南省市は149位であった。どういう基準でこうなったのか気になった。このまちらしく、基本構想に基づいてコツコツやっていたらよいかと考えている。

市の職員は、そのような評価をどのように判断しているのか。

●事務局

湖南省市の自治会の加入率は70%となっている。地元に住んでいる市の職員の自治会加入率は70%以上だと認識している。自治会に入っていない職員のほうが少ないと思われる。

東洋経済が出している「住みよさランキング」については、大規模店舗の面積、住宅の広さを数値化している。いろいろ要因があるが、一番弱いのが大規模店舗の面積である。

イオンタウンの数値が反映されれば、上がると思う。

私個人としては居心地が悪いとは思っていないし、職員がそんなことを考えてわざわざ市外に住むということはない。皆さんも湖南省は住みやすいと感じてもらっていると思う。

●委員

行政サービスが世界一になっているのは、要求が多いからだと思う。行政サービスの内容を考えなおす必要がある。地域の様々な団体に奮起してもらって、コンパクトシティの考え方を進めるような方向性ができると良い。

2060年に人口が1割減はかなり高い目標で、夢だけになってしまうのではないかと心配である。高齢化の進行が深刻な問題である。高齢化の資料がないが、急激な高齢化であるため年代別の構成比があるとよい。高齢者を受け入れるまちなになれば、将来の市の政治は大きく変わるのではないかと。将来の市の見通しを教えてください。

●事務局

年齢3区分別人口の構成比がわかる資料を今用意する。

今の湖南省の高齢化率は20%で、毎年1%ずつ上がり2060年には40%を超える予想があり、何とか30%台に抑えたい。高齢者を受け入れる施策を進めていきたいと考えている。

●会長

2060年には団塊世代がいなくなって高齢者が減る。2030年頃になると、病院の容量不足で病院での看取りができない状態になる。在宅での看取り環境が整備されていないため、家族が高齢者を看護、介護できない。高齢者が健康を維持し、介護の必要のない状況にする必要がある。課題が山積である。

●委員

民生委員をしている関係で高齢者、障がい者と接する機会が多い。この方たちに人口減少の危機を説明するにはどんな方法があるか。自然界では絶滅危惧種があるが、世界の人口減少の危機はどれくらいなのか。

●事務局

人類の危機がどれくらいなのか、という質問だと思われるが、今すぐにはお答えできない。

●委員

第2次総合計画、3つのプランの重点プロジェクトに対して湖南省の予算の中でどれだけの割合を確保するのか。

国連では2100年の世界人口は120億人に増えると予測されている。日本は8300万人に減ることになるが、1億人を維持するために移民を受け入れることにはなるのではないかと。市としても移民について取り組む必要があるのではないかと。

●事務局

アクションプランについては市の予算だけでなく、国が交付金を出すことになっている。そういった予算を使ってアクションプランを進めるが、現段階では割合について正確な数字はいえない。

移民については、市単独では考えられない。移民を受け入れることになれば、地方の負

担になることもある。国の制度設計が大きく影響される。

●会長

いただいた意見を、基本構想に整理する。

次の議題「基本計画の素案について」審議する。事務局に説明をお願いする。

2) 第2次湖南市総合計画基本計画（素案）について

（事務局より資料説明）（省略）

●仁連会長

基本計画第7章のタイトルは何か。

●事務局

第7章は、「人と地域とまちが輝く3つのプラン」である。

●会長

基本計画の素案について、質問、意見はないか。

●委員

「活気あるまちをつくろう」の「十二坊温泉ゆららの活性化」に関連して情報提供したい。十二坊温泉では「農のある暮らし」として、福祉と農業、エネルギー、観光をテーマにスプリングガーデンを設置して、ここ3年取り組みを進めている。

道の駅の構想も同様に福祉と農業、エネルギー、観光の総合的な取り組みを進めていく時代になってきたと思う。行政だけでなく市民や事業所も同じように関わっていく中で、その辺りをもっと強調してほしい。

●事務局

第2章の9頁に「エネルギー・経済の循環による活性化の推進」を10年前にはなかった新しい取り組みとして設けている。福祉や農業など地域の資源を活用した取り組みについても進めていきたい。

●会長

基本計画ではあらゆる側面が網羅的に入れられている。それぞれ関わりのあることがあると思う。

●委員

目標指標について、資料では各市の設定個数については記載しているが、内容について把握しているのか。

●事務局

目標指標については作業部会で検討している。資料2-2の網掛け部分ごとに指標を出してもらっている。

●委員

部会では他都市の指標の内容をある程度把握しているのか。

●事務局

設定に際しては、近隣市町の目標指標を見ながら担当課が検討している。

●委員

資料には「目標指標の精査を行い」とあるが、以前に指標に優先順位はないといわれたが、何を基準にして精査するのか。

●事務局

第1章から第7章まで全て同じ並びで進めていきたい。

目標数値はできるだけ具体的にし、明らかに達成できているかどうかみていきたい。市民にもわかりやすい目標指標にしていきたい。

●委員

「きらめき湖南」という補助金がなくなったら、まちづくり協議会はいらないのではないかという意見がある。行政が何とかしてくれると考えて、要求だけをいう人がいる。

今後まちづくり協議会についてどうしていくか、行政に相談していきたい。まちづくり協議会の意義が知られていない。基本計画の内容が一方通行にならないようにしてほしい。

田舎でもない都市でもない、中途半端なまちである。基本計画の進め方については、話し合いが必要である。

●委員

高齢化率 20%から 40%があがるということだが、高齢者の人口はほぼ変わらなかった。単純に人口を減らさないということは、若者が減っていくことを食い止めるということか。そのためには、「今いる若者を出さない」「若者を呼ぶ」「子どもを多く産んでもらう」の3つの方法しかないと考える。その中で、どれにスポットをあてて取り組むのか。

空家対策はどここの市町村でも取り組まれているため、特徴がないと人は増えない。湖南市だから行きたいというものがないと空家対策等の取り組みも生きてこないと思う。

●事務局

若い世帯の転入が大事だと考えている。出ていくのを止めることは難しい。湖南市に残って湖南市に就職すれば良い事がある。湖南市はいいところだねと思ってもらえる魅力を出していく必要がある。

空家対策については、湖南市の空家に入ってメリットがあれば良いと考えているが、今は目に見えるメリットについては答えられない。湖南市の魅力をプロモーションし、湖南市の空家の情報を見ながら住みたいと思ってもらえるようにしたい。

●委員

認定子ども園という考え方は取り入れていかないのか。

第5章の7頁の表は、学年の列の「男」「女」「計」の記載場所が誤っているのではないか。

●事務局

認定子ども園については、担当課ではないためお答えできない。次回までにお答えする。

表はご指摘の通りである。訂正する。

●委員

高齢単身世帯は増えており、第4章の16頁で高齢単身世帯と高齢夫婦世帯を合わせるとかなりの数になる。今後、高齢者の単身世帯についてはどう考えているのか。

●事務局

2025年問題のことだと思うが、4章の16頁の高齢者世帯推移は過去のデータである。高齢者向けの計画を現在策定中であり、民生委員児童委員と区長と連携しながら、単身世帯の見守りを進めている。市としても対策が必要であると認識しており、総合計画に基づいて対策を進める。

●委員

これからのことを考えるのであれば、予測値ができればほしい。パワーポイントの資料は見えないので、資料として配布してほしい。

●事務局

配布する。

●委員

「就学前教育・学校教育」で外国人についてはふれているが、現在外国人は増えているのか。

●事務局

湖南省は外国人比率が非常に高く、以前から対策に取り組んでいる。今回の総合計画では、1章の14頁で「5. 多文化共生のまちづくり」で記載している。南米系の方が多いが、サポート、交流、情報発信について取り組む。

外国人は、2009年のリーマンショックで1500人ぐらいが帰られた。今は横ばい状態と認識している。

●委員

市内で生まれた方が、一度出てまた戻ってくるのが大切である。市内で生まれ、育ち、老いていくのも悪いことではないが、閉鎖的になる可能性が高い。若者が良かったと思っ
て帰ってくる都市を創造することが大切ではないか。市外の方も入ってきやすくなる。市内の良さも気づきやすい。そのような視点をもって考えてほしい。

6つの目標が「つくろう」だけでなく、「育てよう」も重要である。このような場に出てきて積極的に意見を交換できる若者は、社会に馴染み労働力として働いてける方だと思う。そのような方を育てることが大切であり、計画の視点として持つべきである。

●事務局

若い世代である高校生、大学生がまちづくり参画するという意識が薄いと感じている。若者が参画できる仕組みを考えていきたい。

●委員

第1章の10頁に女性登用について記載されているが、この場も3割ぐらいしか女性がい
ない。若者や女性が、平日の日中の会議に参加するのは難しい。私も審議会に出席して市
について知った。いろんな方が出向くしくみを考えてほしい。

●会長

時間をオーバーしている。まだ意見があるようであれば、事務局に文書で提出していただきたい。

次回は「指標」が議題になる。

その他で何かあるか。

4. その他

●事務局

次回は、9月24日木曜日を予定しているがいかがか。

特に問題なければ、その日で開催させていただく。出席していただきたい。

「基本計画の第7章」と「目標指標」、今回の意見で計画を見直した部分について提案させていただく。

5. 閉会

●会長

審議会を終了する。長時間ありがとうございました。

以上